

輪島の里海における藻場保全活動



1. 地域や漁業の概要

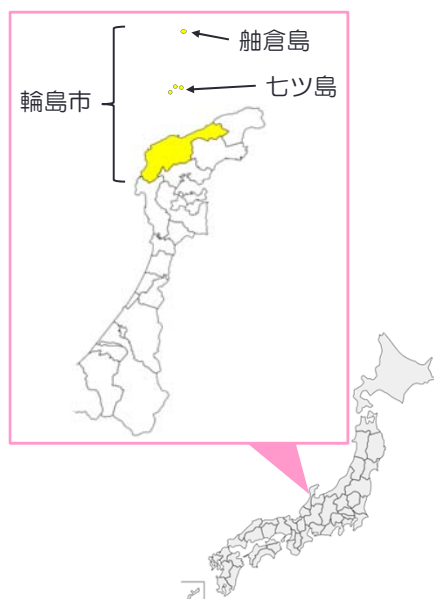
(1) 輪島市の概要

輪島市は、本州中央部日本海に突出した能登半島の北西部に位置する。

観光産業が盛んであり、「輪島の朝市」や伝統工芸品「輪島塗」が有名。

平成23年6月、輪島市が位置する能登半島における「能登の里山里海」が、世界農業遺産に認定。

→「能登の里山里海」が有する豊かな文化・景観・生物多様性等の総合力が高く評価された。

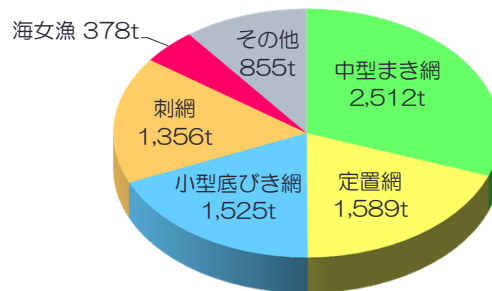


1. 地域や漁業の概要

(2) 輪島市の漁業の概要

輪島市沖合は暖流と寒流が交わり、天然礁に恵まれている好漁場となっており、古くから漁業が盛んな地域

主な漁業は、中型まき網、定置網、小型底びき網、刺網
また、アワビ、サザエ、海藻等を伝統的な素潜りで漁を行う海女漁も有名



輪島市の漁業種類毎の水揚量 (H25)

1. 地域や漁業の概要

(3) 海女漁について

● 輪島市沿岸と輪島市北方に位置する舳倉島・七ツ島を拠点に約200人の海女が漁に従事

→ 三重県に次ぎ、国内第2位。地域の海女の数としては、国内最大。

順位	都道府県	S53	H25
1	三重県	3,167	978
2	石川県	176	215
3	静岡県	1,059	185
4	千葉県	1,161	108
5	徳島県	273	74

● 平成26年6月、輪島の海女による伝統的素潜り漁技術が「石川県無形民俗文化財」に指定され、あわせて「輪島の海女漁保存振興会」が「いしかわ里海の至宝」に認定された。

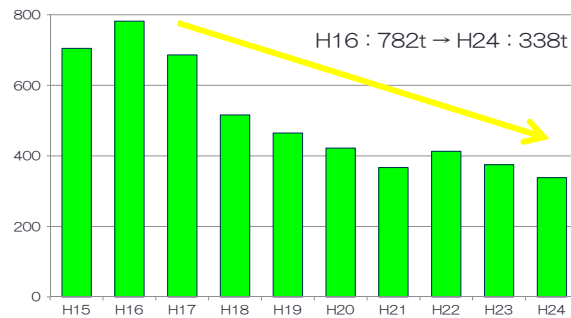
→ 「石川県無形民俗文化財」：海女漁の優れた技術とこれを支える地域の文化が「残すべき貴重な文化」として、県の文化財に指定

→ 「いしかわ里海の至宝」：貴重な里海の文化と言える「海女漁」を継承している海女自身を認定

2. 資源の現状・課題

資源の現状について

アワビ・サザエ等の貝類の漁獲量が減少



アワビ・サザエ等の漁獲量の減少の一因として、藻場の衰退が考えられる。このまま藻場の衰退が続くと、漁場の生産性低下や「能登の里山里海」として評価されている生物多様性の悪化が懸念される。

➡ 海女が中心となり、藻場保全に取り組む

3. 活動組織の概要

輪島の里海を守る会

輪島市南志見地区において、平成24年度から環境生態系保全活動支援事業を活用し、藻場保全に取り組む

平成25年度から、水産多面的機能発揮対策事業に移行し、さらに輪島市光浦地区も加わり、藻場保全活動を実施

【構成員】

南志見地区

海女を中心とした漁業者グループ：232名

漁協職員等の地元住民グループ：23名

光浦地区

海女を中心とした漁業者グループ：228名

漁協職員等の地元住民グループ：28名

3. 活動組織の概要

活動位置図



4. 活動の目標と計画

(1) 目標

輪島市沿岸の藻場の地域資源の維持・回復を図る

(2) 年次計画（3カ年）

食害生物の除去（ウニ類）

浮遊堆積物の除去

母藻の設置（H27～）

(3) 年間スケジュール（H26年度）

活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
食害生物の除去						○						
浮遊堆積物の除去					○	○	○					
モニタリング			○	○	○	○	○	○				

5. 発揮活動の実施状況

食害生物の除去（ウニ類）

南志見地区

平成25年度 3回実施、延べ432名、ウニ等1,630kg除去

平成26年度 3回実施、延べ407名、ウニ等910kg除去

光浦地区

平成25年度 3回実施、延べ436名、ウニ等2,000kg除去

平成26年度 3回実施、延べ429名、ウニ等1,590kg除去



5. 発揮活動の実施状況

浮遊堆積物の除去

南志見地区

平成25年度 2回実施、延べ86名、1,860kg除去

平成26年度 3回実施、延べ89名、1,700kg除去

光浦地区

平成25年度 2回実施、延べ51名、5,600kg除去

平成26年度 2回実施、延べ70名、3,380kg除去



6. 今後の課題・計画

ウニ類の除去

- ウニ類の除去量が減少している。
- モニタリング調査において、ウニ類の減少が確認された。

浮遊堆積物の除去

- モニタリング調査において、藻場に堆積物等は確認されなかった。



藻場保全の取組効果がみられ、藻場の衰退要因の改善が図られた。

一方、藻場の生育状況は、ホンダワラ類等の大型海藻が繁茂しているが、ツルアラメやクロメの生育量の少ない場所があった。



ツルアラメ・クロメの海藻資源の回復に取り組む必要がある。

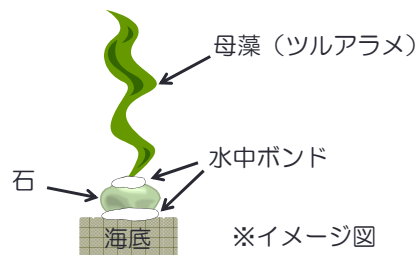
6. 今後の課題・計画

母藻の設置 (H27～)

H27年度より、母藻の設置に取り組むこととしており、今年度は試験的に石川県水産総合センターが実施。

【直植え方式】

ツルアラメの根の一部を石に水中ボンドで接着し、海底に設置する。



6月に試験的に設置したが、枯れてしまったため、設置時期や設置方法の検討が必要

6. 今後の課題・計画

今後の計画

食害生物の除去、浮遊堆積物の除去においては、一定の効果が見られており、来年度も実施し、藻場衰退の改善に取り組む。

アラメ類の資源回復のため、ツルアラメの母藻設置に取り組む。

- 直植え方式では、今年度の試験的設置の結果をふまえ、設置方法・時期を検討し、実施する予定。
- 母藻を網袋に入れて設置するスポアバック方式においても実施を検討する。



里海の藻場の維持・拡大

ご静聴ありがとうございました。

